

計画事業番号	00140	事務事業名	家族介護支援事業	担当部署	保健福祉部 高齢者支援課	電話	2172
--------	-------	-------	----------	------	-----------------	----	------

【基本情報】

事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	根拠法令等	介護保険法、北広島市高齢者等紙おむつ助成事業実施要綱外				
事務事業開始年度	昭和58年	個別計画等	北広島市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画				
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	特別会計	補助単独区分	補助	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第 1 章)	支えあい健やかに暮らせるまち
	(第 5 節)	高齢者福祉・介護の充実
	(施策 3)	介護サービスの充実
2 対象	高齢者を介護している方	
3 目的と内容	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつ購入助成事業 紙おむつの購入に必要な費用の一部を助成することにより、高齢者等が健全で安らかな生活を営むことができるよう支援するとともに家族の負担軽減を図る。 ・在宅生活復帰支援事業 入院中で在宅生活への復帰を希望する方に対し、病院又は施設から一時帰宅の際に介護保険と同様のサービスを試行し在宅生活への復帰ができるよう支援する。 ・家族支援事業 介護する家族の知識・技術の取得や介護者を通して、介護負担の軽減、ストレスまた孤独感の解消を図る。 	
4 実施内容 (手段)	28年度まで	おむつ購入費の助成、在宅介護への復帰支援、介護講座や介護者のつどい等を開催。
	29年度	おむつ購入費の助成、在宅介護への復帰支援、介護講座や介護者のつどい等を開催については、昨年度と同様であるが、家族介護慰労金については、平成28年度で廃止する。

【事業の計画・実績】

平成28年度		平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画	実績	計画	計画	計画
おむつ購入費用の助成 在宅生活への復帰支援 介護講座や介護者のつどいの開催	おむつ購入費用の助成 利用者 238人 在宅生活への復帰支援 2 件 介護講座や介護者のつどいの開催 4回	おむつ購入費用の助成 在宅生活への復帰支援 介護講座や介護者のつどいの開催	おむつ購入費用の助成 在宅生活への復帰支援 介護講座や介護者のつどいの開催	おむつ購入費用の助成 在宅生活への復帰支援 介護講座や介護者のつどいの開催

【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成30年度に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	見直し	1次評価のとおりとする。(家族介護慰労金支給については、平成28年度で廃止する。)	
1次評価	現状継続	現状継続とする。(家族介護慰労金支給については、平成28年度で廃止)	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

「拡大」
「現状継続」
「要検討」
「見直し」
「統合」
「休止・廃止」
「終了」

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			8,676		13,338		14,258		14,566	
事業額	直接事業費	国支出金	2,342		4,421		5,561		5,681	
		道支出金	1,171		2,211		2,780		2,840	
		地方債	0		0		0		0	
		その他特財	3,843		4,211		2,780		2,840	
		一般財源	1,320		2,495		3,137		3,205	
	① 合計	8,676		13,338		14,258		14,566		
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	② 人数(年間)	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	
	③ 1人当り年間平均人件費	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	
	④ =②×③	840	0	840	0	840	0	840	0	
総事業費①+④			9,516		14,178		15,098		15,406	

【評価指標】

指標名		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
活動指標	① おむつ購入費助成	人	280	290	295	300
	② 在宅生活復帰支援	人	13	13	13	13
	③ 家族支援事業 講座等	回	4	4	3	2
	④ 家族介護慰労金支給件数	件	1	-	-	-
成果指標	①	目標値				
	【指標の定義(算式等)】	実績値				
	②	目標値				
【指標の定義(算式等)】	実績値					
③	目標値					
【指標の定義(算式等)】	実績値					

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	高齢化が進展する中で、在宅で介護する家庭が増加しており、家族の介護負担の軽減のため必要な事業である。また、正しい介護の知識や介護技術の普及は在宅介護を推進するうえでも必要である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	介護する家族の経済的な負担の軽減及び介護者同士の交流によるストレスの解消や、孤立感の軽減に効果がある。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	3	在宅生活の支援として必要な事業であり、介護する家族にとって必要な情報が提供されており、十分な成果をあげている。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	在宅生活復帰支援事業は、平成27年度から自己負担割合を見直し、所得の多い方については2割負担とした。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	<input type="checkbox"/> 法律の義務付けあり	<input checked="" type="checkbox"/> 法律の義務付けなし
------------------------	------------------------------------	---

【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	<input checked="" type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 <input type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。
-----------------------------	--